



# 郷土と共に

歩み……4～5

誇り……6～7

古里……8～9

(写真/大正11年に建築した御船中学校の校舎本館)

日本の近代教育制度が始まった明治初期。熊本県では、明治末期から大正にかけて相次いで県立中学校が創設され、発展期を迎えていた。ここ御船の地にも、無限の可能性を秘めた若者が学問に励むべく、「県立御船中学校」が誕生した。御船中学校は、昭和の学制改革で「県立御船高等学校」として生まれかわり幾多の変革を繰り返しながら郷土の母校として、伝統と歴史が刻まれてきた。そして今年、創立から90年を迎えたのであった。今月号では、御船高等学校の歩みをたどり百年へ向けた、郷土「御船」との新たな出発をお伝えする。



## Close\_up 熊本健康おじゃめ大会 お手玉でつなぐ 交流と健康の輪



ねんりんピック2011熊本(第24回全国健康福祉祭くまもと大会)が10月15日～18日まで、県内9市4町を会場に開催されました。

本町では、大会協賛イベントで「熊本健康おじゃめ大会」(熊本おじゃめの会主催)が16日、スポーツセンターで開かれ、1都6県から約300人の選手が訪れて交流を図りました。

オープニングは、御船小学校(佐藤公一郎校長、313人)2年生児童がお手玉演舞を披露して選手を歓迎。開会式で、山本孝二町長は「大会で新たな出会いと友情を育み、交流の輪となることを祈る」とあいさつを述べました。

競技は、重さ40gのおじゃめを使って、個人戦と団体戦で熱戦が繰り広げられました。個人戦は、片手や両手、2人一組で2個～4個のおじゃめを回す6種目。団体戦は、3人一組の制限時間制を設けたトーナメント戦で競われました。選手は、10代から80代までと年齢層は幅広く、おじゃめを体の一部のように操る妙技に、会場につめかけた観衆から盛んな声援と拍手が送られていました。

大会では、熊本おじゃめの会御船支部(増田みち子代表)が企画運営して、寅舞いや肥後のタンタン節のアトラクションなどもあり、選手や来場者を御船流でもてなしました。



ヘルスアートクリニックくまもと院長で熊本おじゃめの会 中原 和彦 代表



熊本おじゃめの会 御船支部 増田みち子 代表

おじゃめの認知症予防効果は医学的にも証明され、実際に治った人もいます。私も医療の現場におじゃめを取り入れています。おじゃめは、集中することで脳を活性化させて、健康に役立つことが魅力です。今大会を機に、おじゃめを身近に感じてもらえたらいいですね。

大会の準備は2年前から進めていました。ボランティアで、町社協、町婦人会、JA女性部などの団体約150人が協力されました。感謝の気持ちでいっぱいです。これから御船町におじゃめを根づかせて、ふれあいや健康に役立っていただくことで恩返しできたらと思います。

1\_2人一組で交互におじゃめを交換する個人種目/2\_オープニングを飾った大学生ジャグラーのアクロバットなジャグリング/3\_団体戦で両手3個ジャグリングに挑戦する蒲地禮子さん/4\_個人戦の片手2個で大人顔負けの手さばきを見せる小学生/5\_団体戦の各コートで真剣勝負を繰り広げる選手/6\_温かいだご汁を振舞い選手を歓迎した町婦人会/7\_応援に駆けつけた人気者「くまモン」